

学校法人佐久学園



佐久の薰風

No. 3

2015(平成27)年11月15日発行

発行人 学校法人佐久学園

編集人 学園通信編集委員会

<http://www.saku.ac.jp/>

写真：桶田 真吾

CONTENTS

- グローバル時代の国際交流 … 2・3
- 地域連携推進センター誕生 … 4
- 足育サポートセンター開所 … 4
- 新任教員紹介 … 5
- 新入生紹介 … 5
- 事務局だより … 5
- キャンパストピックス … 6・7
- ラーニング・コモンズ始動 … 7
- 大学祭報告 … 8
- ボランティア活動 … 8
- Voice of Graduates … 8



国際交流

グローバル(glocal)とは、グローバル(global)とローカル(local)からの造語で、「国境を越えた地球規模の視野と、草の根の地域の視点で、さまざまな問題を捉えていこうとする考え方」です(大辞林第3版より)。本特集では、佐久大学および信州短期大学の国際的な取り組みについてご紹介します。



佐久大学
学長 竹尾 恵子

世界で活躍できる教育を実践

佐久地域は地域医療の先進地として、既に名を馳せており、人々の平均寿命は日本一の長寿を誇ります。長野県の中でもトップクラスにあります。

佐久地域は地域医療の先進地として、既に名を馳せており、人々の平均寿命は日本一の長寿を誇ります。長野県の中でもトップクラスにあります。

佐久地域は地域医療の先進地として、既に名を馳せており、人々の平均寿命は日本一の長寿を誇ります。長野県の中でもトップクラスにあります。

佐久地域は地域医療の先進地として、既に名を馳せており、人々の平均寿命は日本一の長寿を誇ります。長野県の中でもトップクラスにあります。

海外の大学との協定

佐久大学



2012年にアメリカ・オハイオ州、ケント州立大学看護学部と、2014年にはタイ王国チョンブリ県、国立プラパ大学看護学部と、教員の研究活動、教員・学生の相互交流を目的とした学術交流協定を結んでいます。4年次配当科目「国際看護論」の研修はプラパ大学の協力のもと実施している他、教員の共同研究活動が進んでいます。

高齢者ケアプロジェクト

佐久大学と佐久市、プラパ大学とタイ・サンスク町が連携し、それぞれ10万人の人口を持つ町で「高齢者が支え、支えられる地域づくり」を目指して、2014年11月から1年間の活動を行っています。



核家族化が進むサンスク町には高齢者施設がなく、地域で高齢者を支えるネットワークづくりが課題です。佐久市の経験から提言しつつ活動を進めています。



国際看護論タイ研修



2011年度から開講された「国際看護論」タイ研修は今年度で5回目になります。この研修は国際看護の視点を広げる貴重な学びの機会です。今年度は8月24日から10日間、タイ王国チョンブリ県にあるプラパ大学に滞在し、講義を受けたり、高度医療施設やAIDS関連施設の見学、訪問看護への同行をしました。看護学部4年生と短期大学部2年生10名が参加し、最終日にはプラパ大学で学んでいる5か国の学生と交流し親睦を深めました。



外国人講師による講義



大学院では、国際看護や国際保健について学ぶ科目が複数あり、外国人講師による講義もあります。今年度は「国際看護政策論」をタイから招聘したDr.Boonyanurak、Dr.Pornchaiが担当し、アジアを中心とした海外の看護職制度や活動内容、医療事情を学び、国際協力の在り方について考察します。また、看護学部の学生に対しても講義や交流の機会を設けています。

高齢者看護ケア教育モジュールの開発・研修

佐久大学とタイ、ベトナムの計6つの大学による事業を計画しています。ASEANの共通課題である高齢者看護ケア教育の指導者育成を行います。今年度は11月にタイ、ベトナムの大学教員が本学で研修を受け、12月には本学から堀内教授、征矢野教授がタイ、ベトナムへ出向き看護教員を対象としたセミナーを開催します。



佐久大学信州短期大学部
学長 白井 汪芳

グローバル時代の

世界で活躍する介護福祉士をめざして

日本の高齢化は人類が経験したことのないようなレベルで進行しています。アジアを見ても韓国や台湾は日本より急カーブで、また中国においては、けた外れの規模で高齢化が進むといわれています。

これは介護福祉士が世界で活躍するチャンスが到来するということに興味します。これらの国際化に対応するために、佐久大学信州短期大学部では、コミュニケーションツールとしての

英語や中国語の授業に力を入れ、福祉先進国デンマークから小島ブンゴード孝子先生を特任教授に招き「社会福祉比較論」の講義と演習を行うことで、国際的な視野を育てる教育を実践しています。

また、台湾のアジアン・ワイズと包括的連携協定を結び、医療・福祉に従事しようとする台湾からの大学生等を受け入れ、日本の介護知識と技術を伝えるという研修事業にも取り組んでいます。

青年研修カンボジア母子保健看護管理コース



2015年7月4日～16日、カンボジアの助産師14名を受け入れ、母子保健について佐久大学で講義を行いました。長野県の母子保健行政や、佐久市の事業についても学び、病院で産科医療に関する研修を受けました。研修員は、パパママ教室、10代の妊娠、早産や妊娠高血圧への対応、新生児の心肺蘇生等が参考になったと感想を述べていました。



海外からの視察・研修 (2015年1月～)



JICA青年研修「バキスタン／地域保険医療実施管理コース」
竹尾学長による講義と実習室の見学 (1月)



フィリピン看護協会・セブ支部「高齢者ケア」研修
堀内学部長による認知症ケアについての講義と実習室の見学 (3月)



コンゴ民主共和国保健人材開発支援プロジェクト
堀内学部長による人材育成についての講義と実習室の見学 (8月)

信州短期
大学部

アジアン・ワイズ包括的連携協定

2014年12月に台湾のアジアン・ワイズと、資源および研究成果等の交流を促進し、教育・文化・学術研究・社会貢献等の分野で連携し協力するため、協定を結びました。相互に協力することで、グローバル社会をリードする人材の育成を進めていきます。この協定に基づく事業として、台湾留学生介護技術研修プログラムを実施しています。

台湾留学生介護技術研修プログラム



2014年度より、台湾から大学生等を受け入れ、介護体験の研修を実施しています。2015年1月に行った約2週間の研修では、本学で介護の基本的な知識と技術を学び、その後施設での体験学習を行いました。施設では利用者と笑顔で関わること、利用者寄り添ったケアの大切さを学びました。スキーや観光、買い物等を通して文化的な側面での交流もできました。

福祉先進国デンマークに学ぶ授業



小島ブンゴード孝子先生による「社会福祉比較論」では、デンマークの医療・福祉、教育制度、労働環境、デンマークの人々の生き方・老い方、認知症のケア等について学び、これからの日本の福祉・介護の在り方を広い視野から考える授業を行っています。今年度は、ブンゴード先生に学んだ卒業生を対象に「ブンゴード先生と語る会」を計画し、現場の状況等について意見交換をする新たな学びの機会を設けます。



佐久学園地域連携推進センターが誕生しました



地域連携推進センター長

宮地 文子

人口減少社会に向かって地域の自律的な創生が進む中で、次世代を担う人材を輩出する大学は、これからの「まち・ひと・しごと」づくりへの貢献が一層求められています。

佐久大学並びに佐久大学信州短期大学部は、地域の保健・医療・福祉の分野で活躍する人材育成を通じて、地域医療福祉の発展と向上に寄与する事をめざし、平成26年度に、佐久市、佐久商工会議所、社会福祉法人ジェ

イエー長野会、丸子修学館高等学校との包括連携協定を締結しました。

また、同年10月本学1号館に「地域連携推進センター」を開設し、教職員や学生が実施してきた様々な地域貢献活動をさらに発展させる全学的な体制を整えました。

センターは、佐久学園の有する人材や資源を効果的に活用し、市民、地域の関係機関・団体、企業等と幅広く連携し、豊かで活力に溢れる地域創生に貢献することを目指しています。



現在までに実施した主な地域連携推進事業

1. 地域活動連携事業

(地域からの要請に応える交流・実践・施設貸出等)

- ①産学官連携事業 佐久市足育推進事業、ぞっこんさく市、健康づくり佐久市民のつどいなど
- ②地域の機関・団体等への協力 佐久総合病院祭、岩村田小学校英語教育、浅間中学校総合学習、中込中学校総合学習、佐久市消防団学生団員活動、ぴんころウォーキング、その他学生ボランティア活動など
- ③行政機関等の各種委員就任など
- ④施設貸出、図書館開放など

2. 教育研究連携事業(人材育成・教育・研究)

- ①公開講座等の開催 生涯大学校講座、公開講座、講演会・研究会等への講師派遣など
- ②研修事業の実施 臨地実習指導者研修セミナー、介護職員等への喀痰吸引等研修、教員免許状更新講習など
- ③研究会・学会の開催 SAKU看護管理研究会、高齢者ケア研究会@さく、介護環境改善研究会、認知症ケア学会甲信越地方大会、日本笑い学会信州支部など
- ④国際交流事業 海外研修生受け入れ、トヨタ財団「高齢者のヘルスケアに関する効果的な地域ネットワーク」の構築事業、JICA「草の根技術協力事業」など

●地域連携事業に関するお問い合わせ

佐久学園地域連携推進センター TEL.0267-68-6680(代表)

佐久大学公開講座

—賢い患者になるための「患者学」—

- 11月28日(土)14:45～ 認知症の予防と診断
 11月23日(土)14:30～ シンポジウム「健康長寿を支える地域」

「認知症の予防・ケア」公開講演会

- 11月28日(土)13:30～ 認知症の予防と身体活動・運動
 12月12日(土)13:30～ 認知症と口腔ケア～発症予防から食支援まで～
 11月30日(土)13:00～ 豊かに老いる～五感を生かす・身体を活かす～
 12月16日(土)13:30～ NHK・認知症番組ディレクターが語る!

お知らせ

※詳細は本学ホームページにてご確認ください。

生涯大学校講座 シニアのためのパソコン講座 【要申込】

12月1日(火)から全6回 毎週火・木曜日 10:40～12:10

介護公開講座

【要申込】

- 12月15日(火)13:00～ 持ち上げない移乗・移動の介護技術
 11月29日(金)13:00～ 物忘れ相談プログラムについて
 12月9日(火)13:00～ 認知症の人にやさしいケアの基本
 12月23日(火)13:00～ 介護保険制度—認知症対応—
 12月31日(火)13:00～ 進歩する介護用繊維製品

足育サポートセンター開所

8月28日大学構内に、佐久市足育推進協議会「足育サポートセンター」が開所しました。

同センターでは、「市民の一人ひとりが足や靴についての知識を得て、正しい姿勢や歩き方を身につけることで、いつまでもトラブルのない健康な足・身体を育てていく「足育」について、産官学医が相互連携し、調査・研究及び普及・啓発を行うことにより、生涯にわたる健康づくりの推進をはかり、佐久市が標榜する「世界最高健康都市構想」に寄与する」(協議会の目的)ための事業を行っています。

「足育相談」は、佐久大学小野澤助教他が、足の悩みやトラブルの解消に関する相談をします。内容は、足の計測・フ



ットプリント・視診等によるアセスメントを基に、自宅のできる足や爪のケア、靴・靴下の選び方と履き方、必要な医療についてのアドバイスなどです。

相談を始めて、足育には、病院・診療所、靴や歩行関連企業、行政等によるネットワークが大切であることを実感しています。

研修では、看護と介護の関係者を対象に「フットケア基礎セミナー」を開催、地域での啓発活動も実施しています。

足育相談

相談場所：1号館1階 地域連携推進センター
 相談日時：毎週木曜日 9:00～11:30 (祝日は除く)
 相談内容：足や爪の痛みやトラブル、外反母趾など足関節の変形、靴の選び方に関すること
 利用料：無料
 予約方法：毎週木曜日 9:00～11:30 (祝日は除く)
 電話0267-68-6680 (代表) でご予約ください

新任教員紹介

佐久大学および佐久大学信州短期大学部に、新しく着任された先生方です。

①担当領域 ②出身地 ③出身校
④趣味 ⑤自己PR



短期大学部
教授

宮入 ひさ枝

①介護の基本
②長野県
③JA長野厚生連佐久総合病院看護専門学校
④フワアレンジメント・ケーキ作り
⑤看護師として39年間看護の道を歩んでまいりました。豊かな人間性と介護実践能力を持った介護福祉士像を目標に、経験知を活かして頑張りたいと思います。宜しくお願ひ致します。



看護学部
助手

塩入 とも子

①成人看護学
②長野県
③山梨県立看護大学(現 山梨県立大学看護学部)
④ドライブ
⑤楽しく元気に!!を心がけ、学生とともに成長していけたらと思っています。看護の楽しさをたくさんの人と話したいと思っています。よろしくお願ひします。



看護学部
講師

櫻井 綾香

①母性看護学
②長野県
③聖路加看護大学大学院
(現 聖路加国際大学大学院修士課程)
④読書、料理、ドライブ、カフェめぐり
⑤母性看護学の楽しさを、学生の皆さんと共有したいと思っています。



大学院/看護学部
教授

細谷 たき子

①地域看護学
②東京都
③東京医科大学医学系研究科保健衛生専攻博士課程(看護学)
④音楽・歌舞伎鑑賞
⑤地域づくりの先駆的な佐久で教育活動ができ、励みに思います。浅間山やアルプスの山々は美しく、冬は厳しい環境ですが、学生がそのなかで強く賢く育つよう、力を尽くしたいと思います。



大学院/看護学部
研究科主任・教授

松下 由美子

①成人看護学、看護管理
②長野県
③筑波大学大学院修士課程
④家庭菜園、ガーデニング
⑤東京、栃木、山梨で働き、4月から佐久大学に赴任しました。故郷の南信は遠いですが、大好きな信州の自然や人に触れ合えることを楽しんでいます。今後ともよろしくお願ひいたします。

新入生

入学して
半年が経ちました



看護学部看護学科
佐藤 大祐

入学して半年、看護師になるための学習に努めるだけでなく、いろいろなことに挑戦しています。初めての一人暮らしではスマホで調べながら自炊をし、時間をやりくりして趣味に打ち込んでいます。大学では新しく陸上サークルを立ち上げました。これからも新しいことに挑戦していきます。



大学院看護学研究科
齋藤 順子

この春より大学院に入学し、看護師と学生の二足の草鞋を履く生活が始まりました。大学院では新たな学びがあり、知識が深まり自分の看護を振り返ることが出来ます。また、先生や仲間との学びや活動がとても充実していて、忙しい中ですが、楽しく有意義な時間を過ごしています。



信州短期大学部
原 紗莉菜

私は「信頼される介護福祉士を目指して入学しました。そのために短大では、講義だけでなく実習や演習を通して介護の技術を磨いていきたいです。また、チャリティイベントや地域行事のボランティア活動にも積極的に参加して、コミュニケーション能力を高めようと思っています。



別科助産専攻
藤森 由香

助産師になるという夢を叶えるために、佐久大学へ戻ってきました。預かる命は2つ。責任が重い職業ですが、その分喜びや感動も2倍だと感じています。寄り添うことを大切に、お母さん・赤ちゃん・ご家族中心の温かいケアが提供できる助産師を目指して頑張っていきたいと思っています。

学生課

学生課は、学生生活全般に係る支援業務を行っています。主な業務内容は次のとおりです。

事務局
だより

- ①経済支援(日本学生支援機構・自治体・病院・施設等、各種奨学金の受付・管理・相談・指導など)
- ②課外活動支援(学友会、クラブ・サークル、ボランティアなど)
- ③福利厚生支援(学生保険の加入、事故対応、学生駐車場・学内施設利用、アルバイト・アパートの相談など)
- ④キャリア支援(進路指導、就職・進学相談など)
- ⑤健康支援(健康診断の実施、予防接種の実施、病気や怪我の対応・応急処置、健康相談など)

- ⑥学生指導(学生生活上の助言や指導など)
 - ⑦学生相談(何でも相談、カウンセリング受付、ハラスメント相談など)
 - ⑧後援会・同窓会支援
 - ⑨障がいのある学生支援
 - ⑩その他、学生生活に関すること
- 学生一人ひとりが安心して学生生活を送ることができるように、心をこめてサポートしています。

6/20 国際保健医療学会

第30回日本国際保健医療学会東日本地方会が佐久総合病院で開催され、佐久大学教員と学生がスタッフとして参加しました。



6/23 新生児蘇生法講習会

別科助産専攻学生14名を対象として、新生児蘇生法「専門」コース講習会を学内で行いました。



6/27 8/8 8/29 オープンキャンパス

看護・介護体験やキャンパスツアー、ランチ体験などを行い、たくさん的高校生に本学を知ってもらいました。



7/11 事前セミナー&就職相談会

短期大学部2年生を対象にした就職相談会を行いました。



7/20~ 佐久大学公開講座スタート

賢い患者になるための「患者学」と題した全6回の講座がスタートしました。



5/4 佐久バルーンフェスティバル

ステージイベントにフラサークルが出演した他、ボランティアスタッフとして学生が参加しました。



5/14 15 開学祭・開学記念講座

開学を記念した講座と、学生主催の森林セラピー、ソフトラバーを行いました。



5/16 17 佐久総合病院病院祭

佐久総合病院第69回病院祭に、1年生から4年生の看護学部生が参加しました。



5/21 学外授業「地域と文化」

短期大学部2年生が望月歴史民俗資料館を訪れ、明治から大正期に使われていた機織り機を使い、機織りを体験しました。



5/30 JA長野厚生連交流会

JA長野厚生連に就職した卒業生と在学生在が交流を深める会が佐久市内のホテルで開催されました。



6/5~ 学校説明会

松本・長野・佐久で高校教員を対象に説明会を行いました。



4/3 4/4 入学式



4/6 新入生歓迎会

学生会が主催してレクリエーション等を行い、交流を深めました。



4/8 市内見学

別科助産専攻の学生が、佐久市の施設を見学しました。



4/16 キャリア開発支援プログラム

看護学部4年生を対象にした2回目のプログラムは、「就職活動の進め方」という内容で行いました。



4/17 ぴんキラ★ランチ

佐久市の保健事業の一環として学生食堂で提供される「ぴんキラ★ランチ」。4回目のメニューは「きのここと大豆のトマトカレー」でした。



4/23~ 大学見学

県内各地の高校が本学を訪れ、模擬授業や看護・介護を学ぶ環境を見学しました。



10/13 連続市民セミナー「健康長寿を考える」

高等教育コンソーシアム信州主催の連続市民セミナー(全11回)が開催されました。第1回の開催は本学の大淵律子教授が講演しました。



10/17 「認知症の予防・ケア」公開講演会

全5回を予定する講演会がスタートしました。第1回は「認知症の最新情報」と題し、120名程の参加がありました。



9/12 ぴんころウォーク in 佐久平

県内外から集まった参加者が佐久を歩くイベントで学生が運営ボランティアとして参加しました。



10/3 ぞっこん!さく市



看護学部生と短期大学部生、教職員が、駒場公園と長野牧場で開催された「ぞっこん!さく市」に参加し、フットケアなどを行いました。

10/7 国際福祉機器展視察



短期大学部生と一般参加者10名が、東京ビッグサイトで開催された展示会の視察に行きました。

9/3 ナーシングセレモニー

看護学部3年生がナーシングセレモニーを行いました。これから実習に臨む学生の誓いの言葉に、学長をはじめ実習施設、保護者、教員から温かいエールが送られました。



9/5 介護環境改善研究会

第4回介護環境改善研究会(信州介護学研究会)を開催しました。



お知らせ

佐久大学信州短期大学部は「福祉学科」として大きく飛躍します

平成28年4月より、介護福祉学科は「福祉学科」に名称を変更します。

北信越国体長野県
成年男子選抜チームに選出

8月末に行われた北信越国体に、長野県成年男子選抜チームとして出場しました。中学校時代からセンターを務め、高校では走攻守にわたり活躍しチームの勝利に貢献しました。現在所属する社会人チームでの活躍が認められ今回の選出となりました。長野県チームは健闘しましたが惜しくも国体出場を逃しました。



看護学部2年 務基 達之

平成27年度ぴんころ料理コンテストで入賞

佐久市が行ったコンテストで、本学学生が考案したメニューが選ばれました。

最優秀賞 豆腐ハンバーグプレート



看護学部4年 小沢 亜矢子

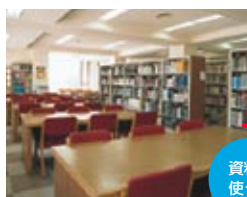


きのこたっぷりのソースで食べるハンバーグと、おからで作るポテト風サラダ。

「選ばれてびっくりしました。うれしいです。」

ラーニング・commons始動

ラーニング・commonsとは、学生の自立的な学習をサポートする「場」です。本学では学生の学習スタイルに合わせて選べる「場」を用意しています。



図書館

ラーニング・commonsの
総合窓口
各種利用サポート

資料を
使って

図書館第2閲覧室

ひとりで
静かに



5号館2F.3Fラウンジ

くつろいで

レストラン



グループで
賑やかに

PC教室



情報機器を
使って

情報ラウンジ

国試対策自習室

集中して

図書館を窓口にキャンパスの各所でスタイルに応じた学習が可能

第8回 秋桜祭 & 第28回 信陽祭

「R.Y.U.S.E.I ~夢を掴むんだ、今~」

10月24-25日の2日間、秋晴れの中、大学祭が盛況に行われました。地域密着の大学として、地域の方への感謝の気持ちを込めて、手づくりの大学祭を楽しんでもらえるよう、いろいろな催しを準備しました。学生による模擬店や展示、地域の方々のステージ発表やライブ、御嶽山災害支援募金のバザー、恒例となったフットケア・ハンドマッサージ等を行い、多くの皆さんに楽しんでいただくことができました。



佐久大学同窓会講演会

詩人・児童文学作家 藤川幸之助氏による講演
「支える側が支えられるとき
—認知症の母が教えてくれたこと—」

12年間認知症の母親に寄り添ってきたご自身の経験から得たことを、詩の朗読を交えつつ語ってくれました。お話を聴きながら涙を流している方もおられ、多くの方にとって強い感銘を受けた講演となりました。



地域交流
サークル

地域のイベントや福祉施設の行事に参加して、ソーラン節や花笠音頭を披露しています。メンバーは14人でダンス経験がない人が多いので、振り覚えるのは大変ですが、みんなでそろって踊れた時の達成感はたまりません。大学祭では地元の方々と一緒に踊りました！



短期学部2年 片井 耶々



▼24時間テレビチャリティー募金活動



ボランティア活動

地域や施設のイベントに多くの学生が参加しています。その一部をご紹介します。

▼佐久福寿園夏祭り



▲小諸学舎花菖蒲まつり

佐久市消防団
学生団員

学生団員として救急講習会のお手伝いをしています。講習会では地域の方々に、一次救命処置の必要性を理解してもらい心肺蘇生法等の演習を行います。一人一人が緊急時に対応できるようになることが大事なので、この活動をたくさんの人に知ってもらいたいです。



看護学部4年 土屋 惇



Voice of Graduates 卒業生の声 No.1



新潟県厚生農業協同組合連合会
柏崎市総合医療センター勤務

石黒 亜耶さん
(看護学部1期生)

- Q4 大学生生活の思い出
A4 仲間と深夜にファミリーレストランでテストや国家試験の勉強をしたことです。
- Q5 大学で学んで役に立っていること
A5 以前は大勢の前で意見を言うことが苦手でした。大学ではグループワークを行う場面が多いのでとても鍛えられ、カンファレンス等で進んで意見を言うことができています。
- Q6 学生にアドバイス
A6 私は実習中に受け持った患者様と臨床現場に出ても看護師として関わらせていただき、看取りの場にも立ち会うことができました。患者様一人ひとりとの出会いを大切に実習を楽しんでください。
- Q7 今後の目標
A7 聞き上手な看護師になりたいと思っています。些細な患者様の訴えにも気が付けるように関わっていきたいです。

- Q1 卒業してから現在
A1 大学を卒業して約3年は佐久市立国保浅間総合病院で勤務し、その後地元に戻り、現在の勤務先で看護師をしています。
- Q2 現在の仕事
A2 内科、小児科の混合病棟に勤務しています。内科は肺炎、心不全で入院されている方が多く、看取りも多い病棟です。小児科は喘息の患児が多いのですがとても賑やかです。
- Q3 仕事の中で大変なこと
A3 退院調整をする中でできるだけ患者様の希望する場所で最期を迎えられるようにと考えています。しかし、皆が皆希望する場所へ退院ができるわけではないため大変と感じます。

編集後記

医学・医療の在り方が見直され始めています。看護師・医師等の人材不足も深刻になりつつある中、私たちが国際的な視野を持つ事も大切になります。あふれる情報社会で私たちが求めているものは何でしょうか？本誌はホッとできる読み物として貢献できたらと思います。
(飯)